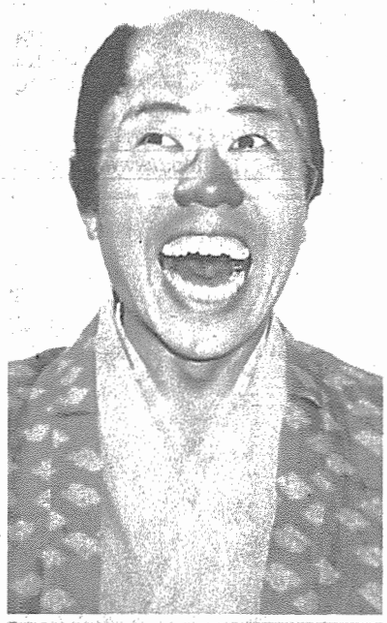
勇気出して大河で赤鼻に

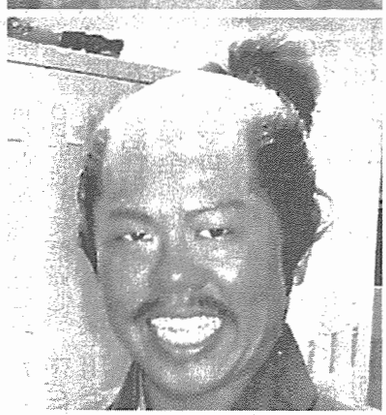
大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)=草津市㉕

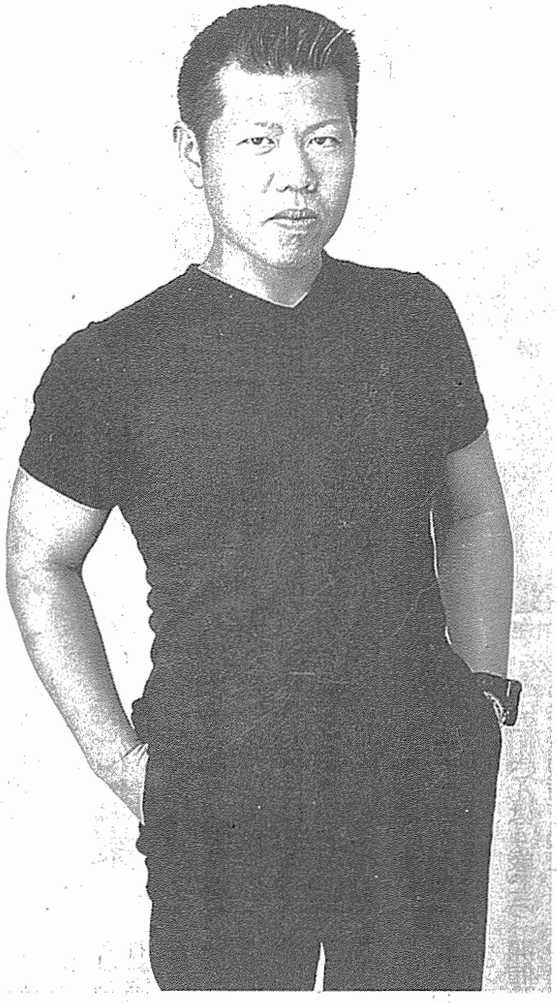
はい上がる人 わたしの歩跡

《2002年、ウッドオフィスA3プロデュース(東京都港区)に事務所が変わり、Vシネマを卒業する》

「NHK大河ドラマにプロフィル資料を出してたら、書類選考されて面接があります」ってマネジャーに言われて。役者が30人ぐらいおったかな。5人ほどずつで面接を受け、助監督2、3人が「時代劇の経験ありますか? 今までNHKに出ていますか」って。面接後に全員に「立ち回りができる人は出てください」って言われたんですけど、自分の他に2人ぐらいしか出なかったんです。







左当時のプロフィル用写真。異常者などを演じたVシネマ時代とは一変している右上と右下NHK大河ドラマ「功名が辻」に山内一豊の家臣として、鼻を赤くして出演=いずれも本人提供

NHKでも攻めの姿勢

京都の大部屋時代に、松竹は人数少なかったので立ち回りもやっていたんです。数々の大河ドラマで殺陣師をやっていた林邦史朗(くにしろう)さん(故人)から「お前、そこそこできるんやなあ」って言われて。チェックして「殺陣○」みたいに書いていくんですね。

僕から言わしたら「なんでみんな出えへんの」。そこなんです。出たら、できへんでも殺陣のとこに「○」されるやん。殺陣の役が必要なときに、キャスティングされるかもしれないんですよ。

出たら立ち回りをやらされますけど、何か考えてやれと言うのは絶対ないですもん。殺陣師の先生が「ここな、こう、こう、こうかかってくるからこう」。せいぜい3手ぐらい。ちょっとした運動ができたら、誰でもできるんですよ。それでも27人は出よらへん。こういう人多いなら、東京でもやっていけるかもしれんなと。助監督から「役はたくさんあります。ここだなと思う方にお声を掛けます」って言われて帰されました。

約1カ月後、マネジャーから「戦国武将の山内一豊(上川隆也さん)が初めて抱える家臣のリーダー格に決まった」って連絡があって。最初は「家臣1〜5」の1人やったかな。名前もありません。いついなくなるかもわからないという触れ込みで。「それでも良ければ出てください」。1年間に49本撮るから、ワンシーンじゃなく、うまいことといったら続くでって事務所で話してましたわ。

《仲間由紀恵さんが一豊の妻千代を演じた「功名が辻」。40歳になる2006年の作品だ》

なんか印象づけたいな。岐阜の田舎から抱えられてきた子やったんで、わざとらしいけど、鼻の赤いのがいいな。ただ、1回出てしまうと、次からそうしないとダメでしょ。大河なんで気後れもしました。

最初は何もせず、メークさんに「ドンペイさん、どうぞ現場へ」って言われて、「はい、ありがとうございました」って一度は立ったんですけど、やっぱり大部屋時代の気持ちを思い出せって。やらなあかん。みんな気を使って、変わったことはやらないんですけど。やらなきゃ答えが出ない。

「メークさん、すんません、田舎から抱えて来られたんで、鼻を赤くしたいんです」「あ〜、面白いなあ」って言うてくださって。現場に行ったら、助監督から「鼻が赤いなあ、自前?」って聞かれ、「あっ、はい」って。赤鼻のキャラクターはネット上で面白がられたんです。

《いつ消えるかもわからない赤い鼻の家臣は、その後も出演を続けた。視聴者と現場スタッフに愛されたからだ》

【編集局・大澤重人】

=つづく、水曜掲載